

# えにしアカデミー

開学 令和3年（2021年）10月



# えにしアカデミー設立の趣意

## Philosophy

社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会(以下、「滋賀県社協」)は法人設立70周年を迎えるにあたり、令和3年(2021年)10月、「えにしアカデミー」を開学いたしました。

滋賀県社協は、滋賀の福祉現場で働く人たちにアイデンティティとビジョンを持ってそれぞれの仕事に向き合ってもらいたいという願いを込め、「滋賀の福祉人」と名付けた人材の育成に取り組んでまいりました。平成30年(2018年)には、滋賀県および大津市との三者で「介護分野で働く滋賀の福祉人育成に関する協定」を締結しました。基本的な研修プログラムを体系的に実施し、現在では多くの施設、事業所に人材育成・キャリア形成の機会として活用いただいています。

今日、私たち社会福祉の実践対象は制度が対象とする人だけでなく、様々な状況で生きづらさや困難を抱える人たちへとひろがり、それに応える新しい経営と人材が求められています。また人口減少を背景に、社会や地域からの期待は、福祉課題への対応にとどまらず、まちづくりや地域の活性化に資する活動等膨らむ一方です。この流れはポストコロナ、ウィズコロナの社会においてさらに加速するでしょう。

当アカデミーでは、今ある研修の基本体系による学びを基礎にしつつ、滋賀の福祉人が一段の高みを目指して成長していくことを支える新しい学びのかたちをスタートさせました。目的は、実践者として主体的に地域生活課題と向き合い、制度や分野の間を越境し、課題解決の一翼を担う人材を県下でも多く育むことです。「創造実践の道場」ともいえます。

滋賀の福祉人に希望を与え、未来、次世代の志ある若者に遺す新しい学びのかたちづくりに「ひたすらなるつながり」のご縁ある方々のご理解、ご賛同とご参画を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

令和4年6月

# メッセージ

Messages

## これからの新しい福祉を創り、 一緒に滋賀の福祉を けん引しましょう

滋賀の縁創造実践センター  
社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会  
会長 わたなべ みつはる 渡邊 光春



滋賀の福祉を支える人々の不足という課題は、今後の「誇りある滋賀の福祉をどのようにしていくのか」という問題提起ともいえます。

滋賀県社会福祉協議会は令和4年(2022年)に創立70周年を迎えるにあたり、この提起に応える展望ならびに福祉実践の社会的価値の発信拠点として「えにしアカデミー」を記念事業として取り組むこととしました。

これからの新しい福祉を創っていくため、意思ある人の福祉の専門性を深め、福祉の専門性の社会的評価や職業イメージを高めるものとして構想し、多様で多彩なフェローのもと「幅広い汎用性のある専門性や人間性に満ちた共感力で明日の滋賀の福祉をけん引する実践研究の場」として令和3年(2021年)10月に開学しました。

アカデミーに集う福祉人の自己実現が「えにしアカデミーの実践」の中で磨きをかけ、その輪が広がり、それぞれの福祉分野・事業所のキャリアパスとして位置づけられることに尽力していくことをお誓いするものです。

## 学び人とフェローが共に育ちあう場、 「幸せ探しと幸せ創り」を リードしましょう

えにしアカデミー  
学長 うえのや かよこ 上野谷 加代子  
(同志社大学名誉教授)



私たちは、これから産まれてくる子どもたちに「幸せな社会」を残すことができるでしょうか？

だれもが、「共感」や「支えあい、助け合い」、「つながる喜び、楽しさ」を生活の中で体験し、その理念・価値を学び、そして誕生を祝福され、命を全うするときには、互いに「ありがとう」と感謝しあうことを権利として、また文化として認めあえる、そのような社会を創りたいと願っています。実現のためには、理念と高度な知識、技術の獲得そして多くの仲間が必要です。

第一歩として、私たちは「えにしアカデミー」を設立いたしました。すべての人の「幸せ探しと幸せ創り」をリードする高度な福祉人に成っていくことを応援する“拠点”です。

学び人とフェロー(講師)が、共に育ちあう場でもあります。新しい学びのカタチの創造です。

小さく産まれましたが、皆様方のお力を得て、大きく育てていただきますようお願い申し上げます。

## 誰一人取り残さない 共生社会の実現にむけて、 えにしアカデミーに 期待しています

滋賀県知事  
えにしアカデミー  
名誉顧問 みかづき たいぞう 三日月 大造



全ての人が他者の生きづらさに気づき、自覚者となり、自ら責任をもって実践にうつす。そうした社会福祉の実践を目の当たりにして人々の中に、ひとの幸せを願い、思いやる共感の心が育っていく。

その共感と連帯によって「誰一人取り残さない共生社会」が実現する…そういう滋賀を目指していきたいと考えています。

「えにしアカデミー」が良き実践者の道場となることを大いに期待しています。

一緒にがんばりましょう。

## 俯瞰力 ふかんりよく

仕事では柔軟で多様な視点からの考察が重要となります。  
 詳細を分析する力(虫の目)、変化・因果・過程・流行を見る力(魚の目)、そして物事を全体から捉える力(鳥の目)など、総合的に広い視野で事象を捉える力を学びます。

## リーダーシップ

リーダーシップとマネジメントは混同されることが多いのですが、良質なチームワークには両方が必要です。  
 メンバー間の信頼関係を高め、目標達成に向けて、チームワークを高いレベルで維持するリーダーシップの視点と心構えを学びます。

## 課題解決力

困難と思われる課題でも、それを乗り越える鍵は必ずあります。  
 自分たちが直面する課題を解決するために、チームとして正確な情報を集め、当事者として主体的に解決への道筋をたてる等、その視点と思考を学びます。



## カリキュラム

えにしアカデミーでは3種類の講義により学びを進めます

### オンライン講義

フェローによるさまざまな講義を受講します。全塾生必修のコア講義と選択講義からなります。

- ✓1回あたり90分間  
(講義60分+振り返り30分)
- ✓受講方法:Zoom等オンライン  
後日聴講も可

### 集合講義

選択して受講します。ワークショップ等を行いながらより深い学びを得られる講義です。

- ✓1回あたり、半日から終日
- ✓日時を事前にお知らせし、原則  
集合型

### ゼミ

相互に交流しながら学びます。  
 1年目は学ぶ方法について、2年目は修了論文作成指導です。

- ✓1回あたり90分間
- ✓日程は受講者と担当フェローが  
相談して設定
- ✓受講方法:Zoom等オンライン  
(一部参集)  
後日聴講も可



合わせて50単位



20単位

2年で70単位取得 + 修了論文作成で修了となります

## 修了までの歩み

単位取得  
一期生の  
例

近年のリカレント教育(学び直し)の高まりに加え、感染症の影響等、学ぶ方法も多様な時代になりました。

えにしアカデミーは、ゼミ等での一部集合する講義もありますが、Zoom等を使ったオンライン受講が基本となります。オンラインでの学びは移動負担がなく、時間を有効に使えるメリットがあります。また、急な勤務変更等で予定していた講義に出席できなくても、動画を後日視聴することで単位取得が認められる仕組みとじていますので安心です。

えにしアカデミーでの学びは、仕事との両立により実践(福祉現場)と理論(えにしアカデミー)が掛け合わせり最大限の力を発揮します。えにしアカデミーで過ごす2年間は、かけがえのない2年間となるでしょう。

カテゴリー	オンライン講義	集合講義	ゼミ	論文
受講方法	オンライン	集合	オンライン or 集合	—
1年目	36回 36単位	4回 12単位	10回 10単位	—
2年目	2回 2単位	—	10回 10単位	提出

上記の例は、修了必要単位を取得する場合です。70単位を超えての単位取得も可能です。

## 塾生の声

えにしアカデミーの講義をこれまで受けてきて、「あたたい地域になるには、どうしようか」と、ワクワクするような気持ちで考えていこうとする自分が、少しずつ育ってきているのではないかと、感じています。  
(児童分野 40代)

ソーシャルワーカーができることは何かを考えながらも、大切なのはこの人に必要なことは何なのか、この人が何を求めているのか、というこの視点で見ることの重要性、その中で自分がこの地域の人たちとできることは何かを考え続けていくことを大切にしていきたいと思いました。  
(障害分野 40代)

多様性が認められたインクルーシブな社会の発展を求めていくためには、その理想と現実を埋めていくための地道な活動が何より重要だと考えます。行政の立場として、地域のそうした活動の全体像を把握しながら、官民連携していくための土台作りを行うとともに、必要な仕組みを作っていきたいです。  
(行政 30代)

一人の力で大きくことを動かすことは難しいですが、他分野の団体とつながりあうことで、新たな気持ちでその家族と向き合えることは、このえにしアカデミーで学んだことが生かされつつあると思わずにはいられません。  
(保育分野 60代)

講義を聞いていて、制度の狭間にいち早く気づいて行動を起こしてきた方々の使命感や熱量に感服しました。そして一番印象に残ったのはSフェローの「制度はしばられるものではなくて、変えていくもの」とのお言葉です。その言葉を聞いた時は率直に「かっこいい」と心が震えました。  
(高齢分野 40代)

レジリエンスを我々が高めるためには、課題を我が事としてとらえる力や視点を持つ必要があります。プレイクアウトルームでも他分野の仲間と少し話すことで、今後のつながりに広がります。私たちが越境し、えにしアカデミーの仲間とつながり、連携し、助け合い、地域福祉を推進できるように、仲間ともしっかり知り合いたいと考えます。  
(社協 40代)

講義で一番印象に残ったのは、「どこまでするかを考えるのが専門職としての在り方」です。えにしアカデミーで学ぶ前は、制度の範疇でどこまで許されるのか、施設的にはどこまでのことを行っているのか、といった考え方でした。しかし、それを考えるのが専門職の在り方であり、考えていいのだ、新しく開発していいのだ、自由な発想で考えてもいいのだといった頭に切り替わりつつあります。  
(高齢分野 40代)

フェローって何ですか？

えにしアカデミーでは講義・ゼミを担当する指導者をフェローといいます。滋賀が誇るべき福祉の実践者および、熱意を持って賛同いただいた学識経験者が講義やゼミの指導を行います。

科目はどのように選択すればよいですか？

ご自分の学びたいことや開発したいことなどを念頭に、講義要覧やシラバスで授業内容を確認してください。また上司等とご相談いただく等、ご自身が描く今後のキャリアデザインとも合わせてご検討ください。

単位を取得するにはどうすればよいですか？

まず、履修登録をしていただき、開講後登録した講義等を受講することで単位が取得できます。

修了論文に不安があります。

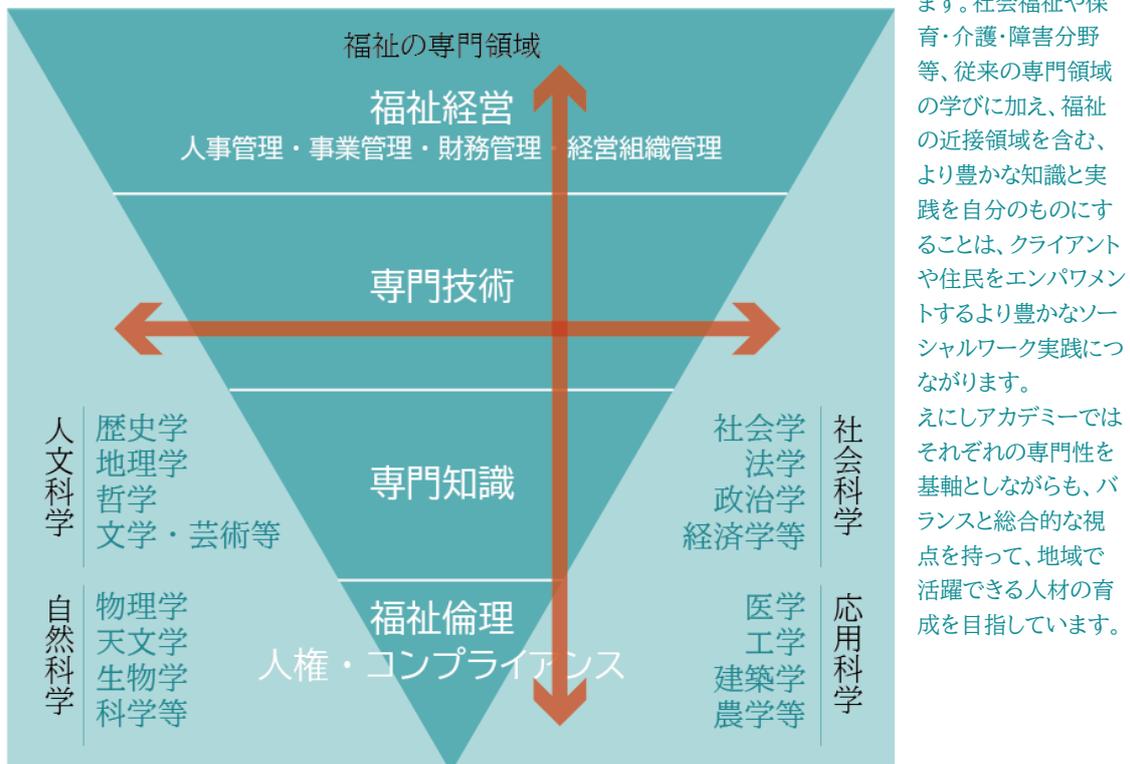
担当フェローが伴走し、計画性を持って、きめ細かく指導しますので、安心してください。

2年間続けられるか心配です。

勤務しながらの学びは体調管理も含め、学生時代とは異なりスケジュールや時間管理などの計画性が重要となります。突発的なこともありますので、その都度何なりとお気軽にフェローや事務局にご相談ください。

他の領域のことを学ぶのは何故ですか？

地域生活課題へ向き合うとき、自己が専門とする分野・領域以外の学びと蓄積が支援や援助の幅を広げてくれ



# シニアフェローからのメッセージ



湯浅 誠 氏

社会活動家、東京大学先端科学技術研究センター特任教授

日々現場で実践している人が学ぶことには、学生時代とはまた違ったメリットがあります。学びをすぐに現場で試せるからです。すると、学びが深まります。自転車の乗り方という本を読んで、自転車に乗れるようになった人はいません。乗って転んで学びます。本講座も座学で終わればそれまでです。現場で試して、乗って転んで、身につきます。自転車に乗るように——そんな気持ちで受講、いただける方をお待ちしています。



尾崎 史 氏

認定特定非営利活動法人あさがお理事長

県外出身の私は、学生時代から滋賀県にはとても憧れを抱いていました。当時、本や映像で紹介されていた福祉の様々な取り組みが強く印象に残っていたからです。ご縁があり、この地に住み着いて、ここで働き、悩み、学び、仲間を得ました。福祉の実践は悩むことの連続ですが、その悩みを力に変えて、現場にお返すための新しい「学びがええにシアカデミー」です。皆様、お待ちしております。



沖田 行司 氏

びわこ学院大学  
びわこ学院大学短期大学部学長

戦後、日本は新しい憲法のもと、人権を尊重し、個性豊かで平和を希求する国民教育を目指してきました。しかし、現実には様々な教育矛盾が露呈しています。近代の礎を築いた江戸時代の教育、とりわけ庶民の寺子屋教育を振り返り、教育の原点とは何かを考えましょう。



渋谷 篤男 氏

日本福祉大学福祉経営学部(通信教育)教授

福祉は、仕事にしろボランティアにしろ、ボランティアな気持ちをめいめいを持って取り組むものと考えてきました。その思いはそれぞれ。時に対立することもあります。でもだからこそ、新しい世界も広がります。他の活動を知り、意見の違いを知り、時に自分の活動を思い返す、そんな場になれば、よいですね。



北野 誠一 氏

社会福祉法人西宮市社会福祉協議会  
共生のまちづくり研究所所長

我が国の社会・福祉は、コロナ禍でその問題点、弱点を露呈しました。高齢者世代の多くは、その人生初期はみんな貧困であり、できる一できない、持つ一持たない、してあげる—してもらう関係ではなく、助け合う・補い合う・営み合うという平等の連帯関係を経験しています(はずです)。一方、若い人たちの多くは、格差社会を基本に生まれ育っており、平等の連帯関係は育ちにくいです。さて、では我が国の社会・福祉をどうすればいいのか、みんなで一緒に考えて、行動してみましよう！



原田 正樹 氏

日本福祉大学社会福祉学部教授  
日本地域福祉学会会長

地域共生社会を実現していくためには、制度や仕組みを変えるだけでなく、私たち一人ひとりが意識や支援を変えていく必要があります。同時に私たちは、地域の差別や偏見に働きかけていかなければ、地域も変わりません。そうしたことを皆さんと学び合っていきたいと思えます。



金子 秀明 氏

社会福祉法人さくらび福祉会理事長

ある40代の男性がつぶやいた。「自分は社会の不適合者、何かしたいのかわからない。働くことが出来ない人です。」福祉サービスだけでは支援できない人を支えるには寄りそう覚悟が要ります。覚悟を確固として支える論理と熱を共に追い求めましょう。



牛谷 正人 氏

社会福祉法人グロー理事長

「ニーズに応えることが福祉の仕事ではない。彼らの暮らしと向き合えばそこに気づきがあり、それをどうすればいいのか考え実践することが生涯をかけた福祉の仕事である」  
40年近く前、大学の卒論で訪ねた信楽で池田太郎氏からいただいた言葉です。制度から発想するのではなく、暮らしから発想する滋賀の取り組みを引き継いでもらえる人とともに滋賀の未来を考えたいと思えます。

えにしアカデミー



滋賀の縁創造実践センター  
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 えにしアカデミー事務局  
〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138  
TEL077-567-3927 FAX077-567-3910  
<https://enishi-ac.jp>